

I 福島県農林水産業の全国における位置

1 農業関係

区 分	単位	年次	実 績		本県のシェア(%)	全 国	
			全国	福島県		順位	1位
面積	km ²	令7	377,976	13,784	3.6	3	北海道
総人口	千人	令2	126,146	1,833	1.5	21	東京都
総農家数	戸	〃	1,747,079	62,673	3.6	4	長野県
販売農家	経営体	〃	1,027,892	41,060	4.0	3	茨城県
農業経営体数	〃	〃	1,075,705	42,598	4.0	4	茨城県
うち個人経営体数	〃	〃	1,037,342	41,671	4.0	3	茨城県
主業経営体数(個人経営体)	〃	令6	177,100	5,200	2.9	10	北海道
準主業経営体数(個人経営体)	〃	〃	101,600	5,000	4.9	2	新潟県
副業的経営体数(個人経営体数)	〃	〃	563,600	24,100	4.3	1	(2位)兵庫県
農業従事者数(個人経営体数)	人	〃	1,936,200	80,700	4.2	2	長野県
基幹的農業従事者数(個人経営体数)	〃	〃	1,114,000	39,900	3.6	7	北海道
農業産出額(都道府県別)	億円	令5	95,543	2,163	2.3	16	北海道
米	〃	〃	15,279	687	4.5	7	新潟県
野菜	〃	〃	23,243	480	2.1	16	北海道
果実	〃	〃	9,590	317	3.3	8	青森県
花き	〃	〃	3,522	83	2.4	13	愛知県
工芸農作物	〃	〃	1,467	7	0.5	19	北海道
畜産	〃	〃	37,685	542	1.4	19	北海道
生産農業所得	〃	〃	33,417	742	2.2	16	北海道
生産農業所得率	%	〃	35.0	34.3	—	28	佐賀県
販売農家1戸当たり経営耕地面積	ha	令6	3.6	2.5	—	18	北海道
耕地利用率(田畑計)	%	令5	91.0	77.7	—	42	佐賀県
耕地面積	ha	令6	4,272,000	133,700	3.1	7	北海道
田面積	〃	〃	2,319,000	94,800	4.1	5	北海道
畑面積	〃	〃	1,952,000	38,900	2.0	10	北海道
水稻収穫量(子実用)	t	〃	7,345,000	356,800	4.9	5	新潟県
大豆収穫量	〃	〃	252,400	1,520	0.6	21	北海道
もも収穫量	〃	〃	109,700	29,100	26.5	2	山梨県
日本なし収穫量	〃	〃	172,700	14,800	8.6	3	千葉県
りんご収穫量	〃	〃	609,200	19,400	3.2	5	青森県
ぶどう収穫量	〃	〃	164,600	2,730	1.7	11	山梨県
かき収穫量	〃	〃	167,300	7,910	4.7	8	和歌山県
きゅうり収穫量	〃	〃	502,900	38,000	7.6	4	宮崎県
トマト収穫量	〃	〃	662,600	21,400	3.2	8	熊本県
アスパラガス収穫量	〃	令5	24,600	1,340	5.4	9	北海道
ばれいしょ収穫量	〃	〃	2,364,000	14,400	0.6	7	北海道
ねぎ収穫量	〃	〃	416,300	9,560	2.3	12	茨城県
さやいんげん収穫量	〃	〃	30,700	2,530	8.2	3	千葉県
さやえんどう収穫量	〃	〃	16,700	965	5.8	4	鹿児島県
ブロッコリー収穫量	〃	〃	171,400	3,740	2.2	11	北海道
葉たばこ収穫量	〃	令6	8,336	247	3.0	9	熊本県
こんにゃくいも収穫量	〃	〃	51,400	25	0.05	9	群馬県
おたねにんじん収穫量	〃	令5	9	5	55.6	1	(2位)長野県
きく出荷量	千本	令6	1,111,000	22,200	2.0	9	愛知県
りんどう出荷量	〃	〃	68,300	2,980	4.4	4	岩手県
トルコギキョウ出荷量	〃	〃	78,300	2,820	3.6	9	長野県
宿根かすみそう出荷量	〃	〃	47,600	9,670	20.3	2	熊本県
収蒔量	t	〃	38.5	6.8	17.7	3	群馬県
乳用牛飼養頭数	頭	〃	1,313,000	10,500	0.8	19	北海道
肉用牛飼養頭数	〃	〃	2,672,000	50,500	1.9	16	北海道
豚飼養頭数	〃	〃	8,798,000	111,600	1.3	21	鹿児島県
採卵鶏飼養羽数(ひな、成鶏めす)	千羽	〃	168,599	5,220	3.1	14	千葉県
肉用若鶏(ブロイラー)飼養羽数	〃	〃	144,859	751	0.5	26	鹿児島県

(資料:「全国都道府県市区町村別面積調」、「国勢調査(速報値)」、「農林業センサス」、「生産農業所得統計」、「農業構造動態調査」、「農業経営統計調査」、「農林水産統計年報」、「耕地及び作付面積統計」、「作況調査」、「野菜生産出荷統計」、「全国たばこ耕作組合中央会調べ」、「(一財)日本こんにゃく協会調べ」、「(公財)日本特産農産物協会調べ」、「ふくしまの蚕糸」、「(一財)大日本蚕糸会調べ」、「畜産統計」、「食鳥流通統計調査」)

2 林業関係

区 分	単位	年次	実 績		本県の シェア(%)	全 国	
			全国	福島県		順位	1位
森林面積	千ha	令4	25,025	973	3.9	4	北海道
国有林	〃	〃	7,657	406	5.3	2	北海道
民有林	〃	〃	17,368	566	3.3	5	北海道
保安林面積	千ha	令6	13,050	410	3.1	7	北海道
林業経営体数	経営体	令2	34,001	777	2.3	17	北海道
素材生産量	千m ³	令5	20,647	931	4.5	6	北海道
針葉樹	〃	〃	18,926	832	4.4	7	北海道
広葉樹	〃	〃	1,721	99	5.8	3	北海道
林業産出額	億円	〃	4,751	134	2.8	10	長野県
木材生産	〃	〃	2,481	94	3.8	7	北海道
薪炭生産	〃	〃	38	0.1	0.3	25	高知県
栽培きのご類生産	〃	〃	2,199	39	1.8	16	長野県
生しいたけ生産量	t	〃	63,374	3,482	5.5	6	徳島県
乾しいたけ生産量	〃	〃	1,816	9	0.5	22	大分県
なめこ生産量	〃	〃	23,752	1,683	7.1	4	新潟県
桐材生産量	m ³	〃	275	185	67.3	1	(2位)群馬県

※小数点以下の端数処理のため、合計値が合わないことがある。

※「森林面積」の福島県の数値については、全国の最新値に合わせて「森林資源の現況」を基に記載している（p65 では令和6年福島県森林・林業統計書の数値を記載している。）

（資料：「森林資源の現況」、「福島県森林・林業統計書」、「保安林及び保安施設地区制度の概要」、「森林・林業統計要覧」、「農林業センサス」、「木材統計」、「林業産出額」、「特用林産関係統計」）

3 水産業関係

区 分	単位	年次	実 績		本県の シェア(%)	全 国	
			全国	福島県		順位	1位
漁業経営体数	経営体	令5	65,662	421	0.6	35	北海道
海面漁業漁獲量(属人)	t	〃	2,926,411	57,742	2.0	14	北海道
海面漁業生産額(属人)	億円	〃	9,510	110	1.2	24	北海道
内水面漁業漁獲量	t	〃	21,567	3	0.0	34	北海道
内水面養殖業収穫量	〃	〃	30,341	1,055	3.5	7	鹿児島県
ヒラメ漁獲量(属人)	〃	〃	6,271	844	13.5	3	北海道
カツオ漁獲量(属人)	〃	〃	192,219	872	0.45	16	静岡県
カレイ類漁獲量(属人)	〃	〃	31,900	571	1.8	10	北海道
サンマ漁獲量(属人)	〃	〃	25,753	2,282	8.9	4	北海道
コイ養殖生産量	〃	〃	1,725	x	—	—	茨城県

※「x」は個人または法人、その他団体に関する秘密の保護等のため、統計数値が公表されていないものを示す。

（資料：「海面漁業生産統計調査」、「内水面漁業生産統計調査」、「漁業センサス」、「漁業産出額」）

II 食料・農林水産業をめぐる情勢

1 農業生産

(1) 農業総産出額

令和5年の農業総産出額（全国推計値、概算）は9兆4,952億円で、前年に比べ4,968億円（5.5%）増加しています。主要部門別に構成割合をみると、畜産が3兆7,212億円で農業総産出額の39.2%を占めており、次いで野菜が2兆3,243億円（同24.5%）、米が1兆5,193億円（同16.0%）、果実が9,590億円（同10.1%）となっています。

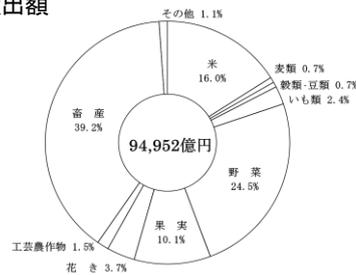
(2) 生産農業所得

令和5年の生産農業所得は、3兆2,921億円で、前年に比べ1,877億円（6.1%）増加しています。

(3) 農業・食料関連産業の国内生産額

令和5年の農業・食料関連産業の国内生産額は124兆6,926億円で、国内の全経済活動の約1割を占め、我が国経済の中で一大産業分野を形成しており、このうち、農業が約1割を占めています。

令和5年農業総産出額
(全国)



年次別農業総産出額（全国推計値）及び生産農業所得

(単位：億円)

年次	総産出額	耕種										畜産	加工農産物	生産農業所得	(参考) 生産農業所得率
		計	米	麦類	雑穀・豆類	いも類	野菜	果実	花き	工業農作物	その他				
昭60	116,295	82,996	38,299	2,152	1,082	2,031	21,104	9,383	2,302	5,064	1,580	32,531	768	43,800	37.7
平2	114,927	82,952	31,959	1,698	993	2,388	25,880	10,451	3,845	4,303	1,434	31,303	673	48,172	41.9
7	104,498	78,513	31,861	843	772	2,431	23,978	9,140	4,360	3,895	1,235	25,204	781	46,255	44.3
12	91,295	66,026	23,210	1,306	1,085	2,298	21,139	8,107	4,466	3,391	1,023	24,596	673	35,562	39.0
17	85,119	59,396	19,469	1,537	861	2,016	20,327	7,274	4,043	3,027	842	25,057	666	32,030	37.6
22	81,214	55,127	15,517	469	718	2,071	22,485	7,497	3,512	2,143	715	25,525	562	28,395	35.0
23	82,463	56,394	18,497	370	640	2,045	21,343	7,430	3,377	1,983	709	25,509	560	27,800	33.7
24	85,251	58,790	20,286	440	723	1,842	21,896	7,471	3,451	1,962	719	25,880	581	29,541	34.7
25	84,668	57,031	17,807	410	689	1,985	22,533	7,588	3,485	1,849	687	27,092	545	29,412	34.7
26	83,639	53,632	14,343	384	809	2,075	22,421	7,628	3,437	1,889	646	29,448	559	28,319	33.9
27	87,979	56,245	14,994	432	771	2,261	23,916	7,838	3,529	1,862	643	31,179	555	32,892	37.4
28	92,025	59,801	16,549	312	634	2,372	25,567	8,333	3,529	1,871	635	31,626	598	37,558	40.8
29	92,742	59,605	17,357	420	780	2,102	24,508	8,450	3,438	1,930	620	32,522	615	37,616	40.6
30	90,558	57,815	17,416	398	713	1,955	23,212	8,406	3,327	1,786	603	32,129	615	34,873	38.5
令和	88,938	56,300	17,426	527	864	1,992	21,515	8,399	3,264	1,699	614	32,107	530	33,215	37.3
2	89,370	56,562	16,431	508	765	2,370	22,520	8,741	3,080	1,553	595	32,372	436	33,434	37.4
3	88,384	53,784	13,699	709	775	2,358	21,467	9,159	3,306	1,727	587	34,048	549	33,479	37.9
4	89,984	54,767	13,946	647	798	2,199	22,294	9,232	3,492	1,551	607	34,652	565	31,044	34.5
5	94,952	57,227	15,193	678	649	2,301	23,243	9,590	3,522	1,467	585	37,212	513	32,921	34.7

※平成13年以降、野菜に、もやしが含まれる。

※小数点以下の端数処理のため、合計値が合わないことがある。

(資料：農林水産省「生産農業所得統計」)

農業・食料関連産業の国内生産額

(単位：10億円、%)

区分	実数			対前年度増減率		全経済活動に占める割合		
	令和3	令和4	令和5	令和4	令和5	令和3	令和4	令和5
全経済活動	1,042,461.4	1,117,503.0	1,159,855.3	7.2	3.8	100.0	100.0	100.0
農業・食料関連産業	109,080.2	115,582.8	124,692.6	6.0	7.9	10.5	10.3	10.8
農林漁業	12,341.6	12,702.7	13,294.9	2.9	4.7	1.2	1.1	1.1
農業	10,758.6	10,927.7	11,414.0	1.6	4.5	1.0	1.0	1.0
林業(特用林産物)	213.8	212.2	223.2	-0.7	5.2	0.0	0.0	0.0
漁業	1,369.1	1,562.8	1,657.6	14.1	6.1	0.1	0.1	0.1
関連製造業	39,636.6	41,709.9	43,475.5	5.2	4.2	3.8	3.7	3.7
食品製造業	37,013.1	38,637.7	40,320.4	4.4	4.4	3.6	3.5	3.5
資材供給産業	2,623.6	3,072.2	3,155.1	17.1	2.7	0.3	0.3	0.3
関連投資	2,518.6	2,506.5	2,463.5	-0.5	-1.7	0.2	0.2	0.2
関連流通業	35,445.9	36,358.0	38,850.0	2.6	6.9	3.4	3.3	3.3
外食産業	19,137.7	22,305.7	26,608.8	16.6	19.3	1.8	2.0	2.3

※農業部門：農業サービス・中間生産物を含み、加工農産物を含まない点が、上記の農業総産出額と異なる。

※令和5年は概算値

(資料：農林水産省「令和5年農業・食料関連産業の経済計算(概算)」)

2 食料自給率

(1) 我が国の食料自給率

我が国の令和5年度食料自給率（概算値）は、主要品目別（重量ベース）にみると、米が99%で多くが国産で賄われており、米以外で自給率50%を超えている品目は、いも類、野菜、肉類、鶏卵、牛乳・乳製品、魚介類、海藻類、きのこ類です。一方、小麦、大麦、豆類、油脂類の自給率は低く、ここ数年ほぼ横ばいで推移しています。

供給熱量ベース（カロリーベース）では、小麦の生産増加や油脂類の消費量減少がプラス要因となる一方で、てん菜の糖度低下による国産原料の製糖量の減少がマイナス要因となり、前年度並みの38%となりましたが、主要先進国の中で最低水準のまま推移しています

また、生産額ベースでは、輸入された食料の量は前年度と同程度でしたが、国際的な穀物価格や生産資材価格の水準が前年度と比較して落ち着き、輸入総額が前年度比で減少（特に、畜産物、油脂類（飼料、原料を含む）の輸入総額が減少）したこと等により、前年度から3ポイント増加し61%となっています。

我が国の食料自給率の推移

（単位：％）

	昭40	50	60	平2	7	12	17	22	23	24	25	26	27	28	29	30	令和	2	3	4	5
米	95	110	107	100	104	95	95	97	96	96	96	97	98	97	96	97	97	97	98	99	99
うち主食用	—	—	—	—	—	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	—	—	—	—	—
小麦	28	4	14	15	7	11	14	9	11	12	12	13	15	12	14	12	16	15	17	15	17
大麦・はだか麦	73	10	15	13	8	8	8	7	7	8	9	9	9	9	9	9	12	12	12	12	12
いも類	100	99	96	93	87	83	81	76	75	75	76	78	76	74	74	73	73	73	72	70	73
豆類	25	9	8	8	5	7	7	8	9	10	9	10	9	8	7	7	7	8	8	7	8
うち大豆	11	4	5	5	2	5	5	6	7	8	7	7	7	7	7	6	6	6	7	6	7
野菜	100	99	95	91	85	81	79	81	79	81	79	79	80	80	79	80	79	80	80	79	80
果実	90	84	77	63	49	44	41	38	38	38	40	42	41	41	40	38	38	38	39	39	38
肉類(鯨肉を除く)	90	77	81	70	57	52	54	56	54	55	55	55	54	53	52	51	52	53	53	53	53
うち牛肉	95	81	72	51	39	34	43	42	40	42	41	42	40	38	36	35	36	36	38	39	40
鶏卵	100	97	98	98	96	95	94	96	95	95	95	95	96	97	96	96	96	97	97	97	96
牛乳・乳製品	86	81	85	78	72	68	68	67	65	65	64	63	62	62	60	59	59	61	63	62	63
魚介類	100	99	93	79	57	53	51	55	52	52	55	55	55	53	52	55	53	55	58	54	52
海藻類	88	86	74	72	68	63	65	70	62	68	69	67	70	69	69	68	65	70	68	67	65
砂糖類	31	15	33	32	31	29	34	26	26	28	29	31	33	28	32	34	34	36	36	34	25
油脂類	31	23	32	28	15	14	13	13	13	13	13	13	12	12	13	13	13	13	14	14	15
きのこ類	115	110	102	92	78	74	79	86	87	86	87	88	88	88	88	88	88	88	89	89	89
供給熱量ベース総合食料自給率	73	54	53	48	43	40	40	39	39	39	39	39	39	38	38	37	38	37	38	38	38
生産額ベース総合食料自給率	86	83	82	75	74	71	70	67	68	66	64	66	66	68	66	66	66	67	63	58	61
主食用穀物自給率	80	69	69	67	65	60	61	59	59	59	60	61	59	59	59	61	60	61	61	61	63
飼料用を含む穀物自給率	62	40	31	30	30	28	28	27	28	27	28	29	29	28	28	28	28	28	29	29	30
飼料自給率	55	34	27	26	26	26	25	25	26	26	26	27	28	27	26	25	25	25	26	26	27

（資料：農林水産省「食料需給表」）

主要国の主要農産物の自給率（重量ベース）

（単位：％）

	年	穀類	いも類	豆類	野菜類	果実類	肉類	卵類	牛乳・乳製品	魚介類	砂糖類	油脂類
アメリカ	2021	124	95	175	66	36	114	105	98	62	73	91
カナダ	2021	162	153	318	47	14	145	93	90	86	9	207
ドイツ	2021	102	134	18	21	22	118	70	96	23	134	92
スペイン	2021	67	58	10	233	127	160	115	82	57	27	75
フランス	2021	177	129	77	65	50	95	100	97	30	194	96
イタリア	2021	62	45	28	140	99	80	98	77	17	12	39
オランダ	2021	8	162	0	185	24	247	198	100	93	154	47
スウェーデン	2021	127	73	64	19	4	76	86	75	53	97	48
イギリス	2021	73	79	55	22	8	74	94	79	53	58	57
スイス	2021	32	80	23	28	26	83	56	96	2	50	43
オーストラリア	2021	387	75	294	50	93	154	99	106	33	342	99
日本	2011	28	75	9	79	38	54	95	65	52	26	13
	2014	29	78	10	79	42	55	95	63	55	31	13
	2015	29	76	9	80	41	54	96	62	55	33	12
	2016	28	74	8	80	41	53	97	62	53	28	12
	2017	28	74	9	79	40	52	96	60	52	32	13
	2018	28	73	7	78	38	51	96	59	55	34	13
	2019	28	73	7	79	38	52	96	59	53	34	13
	2020	28	73	8	80	38	53	97	61	55	36	13
	2021	29	72	8	79	39	53	97	63	57	36	14
	2022	29	70	7	79	39	53	97	62	54	34	14
	2023	30	73	8	80	38	53	96	63	52	25	15

（資料：農林水産省「食料需給表」）

(2) 福島県の食料自給率

本県の食料自給率は、令和4年度の供給熱量ベースが前年度と同じ75%（概算値）、生産額ベースでは5ポイント減の79%（概算値）となっています。

なお、都道府県別食料自給率については、

- ① データの制約から、各都道府県の生産・消費の実態を十分把握できていない部分があること
- ② 各地域の自然・社会・経済的な諸条件が異なっていることから、その水準を各都道府県間で単純に比較できるものではないことに留意することが必要とされています。

※都道府県別食料自給率の計算方法

供給熱量ベース

$$\text{都道府県別食料自給率} = \frac{\text{供給熱量ベースの各都道府県産熱量}}{\text{1人・1日あたりの供給熱量}}$$

分母となる1人・1日当たりの供給熱量は、全国の1人・1日当たり供給熱量と同じとしている。

分子となる1人・1日当たりの各都道府県産熱量は、品目ごとに全国の国産供給熱量を当該県の生産量等に応じて按分して、全品目を合計し、これを当該県の人口で割って算出している。

生産額ベース

$$\text{都道府県別食料自給率} = \frac{\text{生産額ベースの各都道府県の食料生産額}}{\text{食料消費仕向額}}$$

分母となる食料消費仕向額については、全国の食料消費仕向額を当該県の人口に応じて按分して算出している。

分子となる各都道府県の食料生産額は、品目ごとに全国の国内生産額を当該県の産出額等に応じて按分し、これらを合計して算出している。

(参考：農林水産省HP)

都道府県別食料自給率

(単位：%)

	供給熱量ベース		生産額ベース	
	3年度 (確定値)	4年度 (概算値)	3年度 (確定値)	4年度 (概算値)
全 国	38	38	63	58
北 海 道	223	218	222	205
青 森	120	116	241	216
岩 手	108	106	195	180
宮 城	72	69	82	81
秋 田	204	196	138	128
山 形	147	145	176	165
福 島	75	75	84	79
茨 城	70	68	113	103
栃 木	71	68	99	88
群 馬	33	34	88	78
埼 玉	10	10	15	13
千 葉	24	24	45	42
東 京	0	0	2	2
神 奈 川	2	2	11	10
新 潟	109	117	100	96
富 山	77	79	53	52
石 川	46	47	43	41
福 井	65	66	48	46
山 梨	19	20	99	93
長 野	52	54	118	107
岐 阜	25	26	43	41
静 岡	16	15	51	47
愛 知	12	12	28	26
三 重	40	40	58	52
滋 賀	49	51	34	32
京 都	12	12	18	17
大 阪	1	1	5	5
兵 庫	16	16	33	32
奈 良	14	15	21	19
和 歌 山	29	30	119	102
鳥 取	61	61	129	121
島 根	63	64	99	96
岡 山	36	37	61	57
広 島	22	22	38	36
山 口	31	32	43	40
徳 島	40	41	110	102
香 川	33	34	79	74
愛 媛	37	36	115	108
高 知	45	44	168	155
福 岡	20	21	33	31
佐 賀	95	99	140	132
長 崎	41	40	142	131
熊 本	58	60	159	142
大 分	46	47	106	96
宮 崎	64	63	286	253
鹿 児 島	79	80	271	249
沖 縄	32	34	52	45

(資料：農林水産省「都道府県別食料自給率について」)

3 輸出入

(1) 我が国の農林水産物の輸出入

我が国の令和6年の農林水産物の輸入額は、前年より4.7%増加して約13兆4,049億円となっています。また、農林水産物の輸出額は前年より3.8%増加して約1兆4,092億円となっています。さらに、貿易収支をみると農林水産物の輸入超過額は前年より4.9%増加して約11兆9,957億円となっています。

令和6年の主要農林水産物の輸入数量・金額

品目名	数量	対前年増減率	金額	
			億円	%
農林水産物	—	—	134,049	4.7
農産物	—	—	95,461	5.4
	千t			
とうもろこし	15,276	2.7	5,963	-13.5
大豆	3,171	0.5	2,876	-7.1
小麦	5,214	3.7	2,566	-5.3
牛肉	527	4.4	4,751	15.6
豚肉	977	6.2	6,457	17.2
鶏肉調製品	503	5.3	3,448	9.7
酪農品	496	6.5	3,331	-0.3
野菜(生鮮・冷蔵)	670	8.2	934	7.8
冷凍野菜	1,169	4.3	3,319	8.9
果実(生鮮・乾燥)	1,723	0.1	4,320	10.0
たばこ	113	-7.5	7,136	9.7
コーヒー豆(生豆)	360	1.3	2,440	20.2
林産物	—	—	17,961	4.3
	千m ³			
製材・加工材	4,070	18.5	2,517	15.1
素材(丸太)	1,774	-12.0	711	-9.3
	千t			
木材チップ	11,050	-0.6	3,136	-2.4
	千m ²			
合板	187,120	11.0	1,219	3.2
	千t			
水産物	2,157	0.0	20,627	2.3
えび(活・生・蔵・凍)	155	9.8	2,086	8.0
かつお・まぐろ類(生・蔵・凍)	209	5.6	1,894	-9.2
さけ・ます(生・蔵・凍)	220	8.7	2,790	7.7

(資料：農林水産省「農林水産物輸出入概況」)

令和6年の主要農林水産物の輸出数量・金額

品目名	数量	対前年増減率	金額	
			億円	%
農林水産物	—	—	14,092	3.8
農産物	—	—	9,816	8.4
	t	%		
米	45,112	4.1	120	23.4
牛肉	10,114	20.1	636	11.6
豚肉	1,694	-11.4	18	-14.2
鶏肉	4,621	5.3	13	-5.2
酪農品	20,224	-19.3	216	-5.8
野菜(生鮮・冷蔵)	6,456	-23.4	18	1.6
冷凍野菜	2,315	10.2	14	16.5
果実(生鮮・乾燥)	46,720	-0.8	401	10.1
緑茶	8,798	16.1	364	24.6
林産物	—	—	667	7.5
	m ³			
製材・加工材	158,612	13.2	81	14.9
	t			
水産物	—	—	3,609	-7.5
かつお・まぐろ類(生・蔵・凍)	48,759	33.8	201	-11.3

(資料：農林水産省「農林水産物輸出入概況」)

(2) 県産農産物の輸出

県産農産物は、原子力災害の影響により、55 の諸外国・地域において輸入規制措置が執られました。しかし、平成 24 年度からタイへ新たな販路を開拓し、震災後初めてもも等が輸出されたほか、平成 25 年度からはマレーシア、平成 26 年度からはインドネシアや、輸入を解禁したシンガポールへの輸出も実現しました。最近では、令和 4 年度に英国、令和 5 年度に EU において輸入規制が撤廃される等、現在では 6 か国・地域にまで減少しています（令和 7 年 4 月末現在）。

総輸出量は、平成 29 年度には震災前を超え、その後も増加傾向にあり、令和 6 年度は過去最高の約 898t となりました。

県産農産物の輸出量実績

(単位：kg、%)

区分	国・地域 ^{※1}	平24	25	26	27	28	29	30	令元	2	3	4	5	6	対前年増減率 (令6/令5)
農産物		2,403	5,296	10,859	39,742	66,859	213,334	217,847	304,988	284,755	431,600	319,490	453,252	898,083	98.1
青果物		1,960	4,424	9,463	25,387	43,577	87,635	62,446	134,005	45,670	29,929	66,956	63,223	68,111	7.7
もも	タイ、インドネシア、シンガポール等	1,100	3,125	5,075	10,465	30,635	48,325	32,426	54,135	23,246	23,098	42,650	45,765	52,025	13.7
なし	ベトナム、タイ、シンガポール	0	250	340	420	600	12,550	22,888	34,686	16,740	3,045	14,360	14,120	13,405	-5.1
ぶどう	イギリス	0	80	12	0	20	0	0	1,750	555	0	0	700	325	-53.6
りんご	タイ	860	900	2,690	7,880	4,987	3,600	5,230	36,140	2,500	2,100	9,200	2,100	1,650	-21.4
かき	タイ	0	0	232	396	3,147	18,967	1,324	6,526	2,460	1,406	612	538	706	31.2
いちご		0	0	0	0	347	764	155	268	25	0	22	0	0	-
ねぎ等野菜	マレーシア、シンガポール	0	69	1,114	6,226	3,841	3,429	423	500	144	280	112	0	0	-
米	カナダ、アメリカ、香港、英国等	0	0	300	13,450	22,329	123,540	150,780	170,475	237,025	397,845	244,115	383,510	823,456	114.7
牛肉	アメリカ等	443	872	1,096	905	837	2,159	4,621	508	2,060	3,826	8,419	6,519	6,516	0.0
その他(そば米等)		0	0	0	0	116	0	0	0	0	0	0	0	0	-

※1 令和 6 年度における主な輸出先

(県産品振興戦略課、県農林企画課、福島県貿易推進協議会調べ：令和 7 年 3 月末時点)

【参考】県産農産物の輸出量実績 (H21~23) (単位：kg)

国・地域	品目	平21	22	23
中国(上海)	果実	857	1,100	-
中国(香港)	果実、米等	46,156	125,133	17,000
台湾	果実、米等	75,988	21,206	-
シンガポール	果実	128	270	-
タイ	果実	130		-
ロシア	果実	215	115	-
アメリカ	牛肉	622	-	-
オーストラリア	米	-	5,100	-
その他	果実	130	-	-
計		124,226	152,924	17,000



福島県復興シンボルキャラクター キビタン

4 食生活の変化

我が国の食生活は、ライフスタイルの変化等に伴い、食事内容や消費形態が多様化してきました。

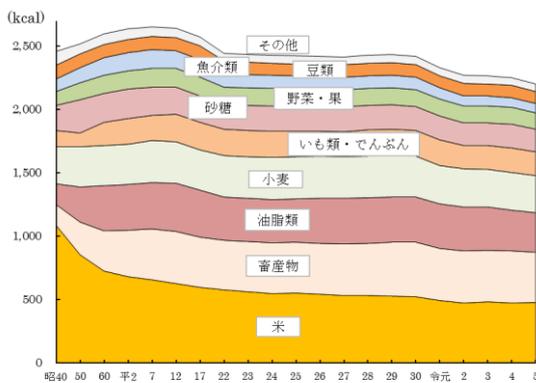
昭和 50 年頃は主食である米を中心に、畜産物、魚介類、野菜、果実など、多様な食品から構成された栄養バランスに優れた「日本型食生活」を実現していました。しかし、近年、米の消費量が減少する一方で、畜産物や油脂類の消費量が増加するなど、栄養バランスの変化が見られます。

国民 1 人・1 日当たり供給熱量

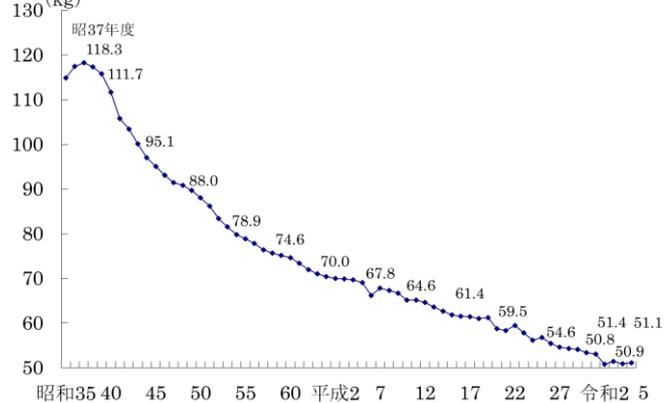
(単位：kcal)

	米	畜産物	油脂類	小麦	いも類・でんぷん	砂糖類	野菜・果実	魚介類	豆類	その他	合計
昭40	1089.7	164.1	159.0	292.3	130.5	196.3	113.0	98.5	106.0	109.3	2,458.7
50	856.4	257.0	274.5	316.8	110.0	262.4	135.7	119.3	107.3	78.9	2,518.3
60	727.3	318.1	353.8	319.7	180.5	231.0	142.8	136.0	103.6	83.7	2,596.5
平2	683.0	365.9	359.8	319.9	203.5	228.6	145.8	143.1	106.1	84.4	2,640.1
7	659.6	399.7	367.6	329.7	200.0	221.5	150.2	148.4	101.1	76.0	2,653.8
12	630.0	406.5	382.9	328.3	218.7	212.3	148.9	135.8	105.0	74.5	2,642.9
17	598.9	396.2	368.3	319.9	217.1	209.5	147.8	137.0	107.6	70.5	2,572.8
22	580.4	389.8	340.5	329.5	204.8	199.0	133.0	110.3	98.4	60.9	2,446.6
23	562.3	396.1	341.2	329.5	209.0	197.7	135.2	107.3	96.2	62.4	2,436.9
24	548.3	400.1	343.0	332.0	206.5	197.5	140.2	105.6	94.2	61.6	2,429.0
25	554.4	400.1	343.5	329.5	204.5	199.6	135.9	99.7	94.6	60.9	2,422.7
26	544.2	401.5	356.6	330.1	199.9	194.5	138.0	102.3	95.4	60.0	2,422.5
27	534.0	406.6	358.6	328.6	200.1	193.7	134.6	100.3	98.2	61.1	2,415.8
28	532.9	413.0	358.1	331.0	203.4	195.3	132.1	99.1	98.4	64.4	2,427.7
29	530.2	424.6	356.4	332.2	202.9	191.6	134.5	97.2	101.1	63.9	2,434.6
30	523.9	430.8	356.1	323.4	200.0	190.0	135.9	95.7	102.1	64.6	2,422.5
令元	495.9	409.0	350.8	303.6	201.1	189.9	130.8	90.9	96.2	65.0	2,333.2
2	475.6	407.8	349.3	300.2	184.5	177.5	131.7	83.7	97.4	63.3	2,271.0
3	481.8	409.9	338.5	298.7	186.7	180.4	133.1	81.2	93.9	61.5	2,265.7
4	476.5	408.5	320.0	299.1	195.4	184.8	132.8	76.3	96.8	62.3	2,252.4
5	477.7	398.1	310.5	292.3	190.9	177.7	126.1	76.3	92.5	60.6	2,202.9

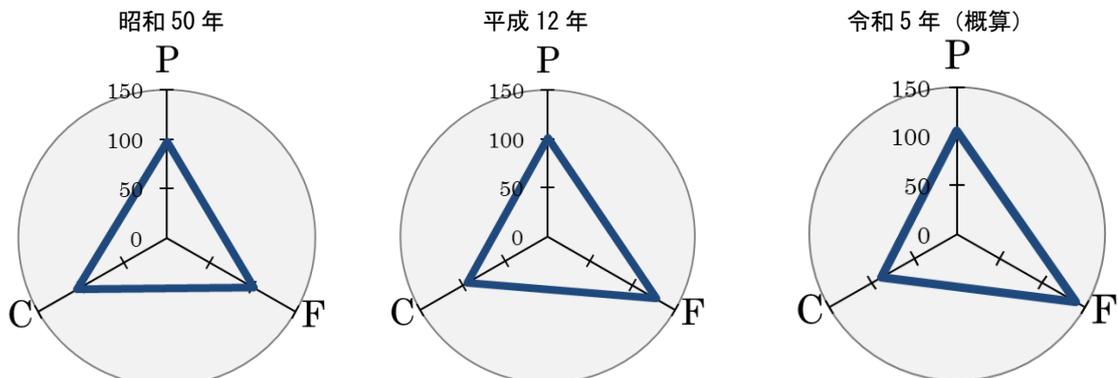
食生活の変化（国民 1 人・1 日当たり供給熱量推移）



国民 1 人・1 年当たりの米消費量の推移



栄養バランスの推移（たんぱく質 (P)、脂質 (F)、糖質 (C) の供給熱量割合の推移、昭和 55 (1980) 年度=100)



※数値は昭和 55 (1980) 年度の PFC 比率 (P:13.0%、F:25.5%、C:61.5%) を 100 とした指数

(資料：農林水産省「食料需給表」)

Ⅲ 県内総生産額からみた本県農林水産業

令和4年度の本県の県内総生産額（名目）は7兆8,650億円であり、そのうち農林水産業は1,081億円で全体の1.4%を占めています。

なお、我が国の令和5年国内総生産額（名目）は591兆9,125億円であり、そのうち農林水産業は5兆5,489億円で全体の0.9%を占めています。

経済活動別県内総生産（名目）

（単位：100万円、%）

	実数		対前年度増加率		構 成 比	
	3年度	4年度	3年度	4年度	3年度	4年度
県内総生産	7,856,368	7,864,963	0.1	0.1	100.0	100.0
1. 農林水産業	104,955	108,050	-10.3	2.9	1.3	1.4
(1) 農業	92,260	94,348	-12.0	2.3	1.2	1.2
(2) 林業	7,960	8,842	12.6	11.1	0.1	0.1
(3) 水産業	4,735	4,860	-6.7	2.6	0.1	0.1
2. 鉱業	10,879	12,875	-1.2	18.3	0.1	0.2
3. 製造業	2,029,918	2,089,042	13.4	2.9	25.8	26.6
(1) 食料品	192,290	211,863	13.7	10.2	2.4	2.7
4. 電気・ガス・水道・廃棄物処理業	371,105	228,592	-19.4	-38.4	4.7	2.9
5. 建設業	669,612	613,658	-22.8	-8.4	8.5	7.8
6. 卸売・小売業	756,221	817,972	3.7	8.2	9.6	10.4
7. 運輸・郵便業	333,498	309,029	-11.5	-7.3	4.2	3.9
8. 宿泊・飲食サービス業	93,977	137,102	-11.0	45.9	1.2	1.7
9. 情報通信業	164,212	156,766	-3.0	-4.5	2.1	2.0
10. 金融・保険業	248,719	263,876	17.9	6.1	3.2	3.4
11. 不動産業	796,838	791,562	-1.3	-0.7	10.1	10.1
12. 専門・科学技術・業務支援サービス業	527,363	544,519	1.3	3.3	6.7	6.9
13. 公務	489,669	494,212	5.6	0.9	6.2	6.3
14. 教育	266,268	267,662	-1.4	0.5	3.4	3.4
15. 保健衛生・社会事業	698,660	711,232	1.3	1.8	8.9	9.0
16. その他のサービス	251,330	256,384	3.6	2.0	3.2	3.3
小 計	7,813,224	7,802,534	-2.0	-0.1	99.5	99.2
輸入品に課せられる税・関税	161,614	207,290	16.4	28.3	2.1	2.6
（控除）総資本形成に係る消費税	118,469	144,862	-2.9	22.3	1.5	1.8
第1次産業	104,955	108,050	-10.3	2.9	1.3	1.4
第2次産業	2,710,409	2,715,574	1.6	0.2	34.5	34.5
第3次産業	4,997,860	4,978,910	-1.0	-0.4	63.6	63.3

※小数点以下の端数処理のため、合計値が合わないことがある。

（資料：福島県「令和4（2022）年度 福島県県民経済計算の概要」）

経済活動別国内総生産（名目）

（単位：10億円）

	平22	23	24	25	26	27	28	29	30	令和	2	3	4	5
1 農林水産業	5,603	5,374	5,620	5,426	5,171	5,564	6,124	6,241	5,813	5,796	5,755	5,588	5,167	5,549
2 鉱業	312	321	309	361	399	409	364	386	384	383	383	364	453	451
3 製造業	104,980	97,179	98,427	98,327	101,654	110,095	110,441	113,026	114,787	112,833	108,208	114,925	111,109	121,822
4 電気・ガス・水道・廃棄物処理業	14,491	11,714	10,756	11,534	13,237	15,391	15,765	16,207	16,282	17,052	17,319	15,273	13,263	15,796
5 建設業	23,465	23,612	23,448	25,351	26,417	27,895	29,282	30,123	30,048	30,434	30,894	31,040	30,533	31,231
6 卸売・小売業	67,620	68,857	70,030	71,099	69,541	70,204	70,292	71,970	70,648	69,325	68,823	72,937	78,085	81,422
7 運輸・郵便業	25,786	25,034	26,146	26,327	27,807	28,496	28,529	29,387	29,550	29,910	22,786	22,999	25,327	28,196
8 宿泊・飲食サービス業	12,914	12,518	11,951	12,524	12,834	12,723	13,898	14,246	14,312	13,837	8,979	6,994	8,426	11,749
9 情報通信業	25,358	24,903	24,916	25,294	25,631	26,616	27,040	26,821	27,178	27,178	27,473	27,625	27,354	27,676
10 金融・保険業	24,499	23,324	22,464	23,224	22,783	23,002	22,263	22,332	22,739	22,594	22,690	23,437	25,280	28,676
11 不動産業	62,371	62,408	62,469	63,179	63,924	64,569	64,909	65,393	65,237	65,710	65,812	65,263	64,944	64,906
12 専門・科学技術・業務支援サービス業	36,178	37,465	37,569	39,051	40,226	42,216	43,760	44,106	44,986	46,391	47,008	48,736	49,780	52,314
13 公務	25,894	26,014	25,656	25,334	25,968	26,393	26,714	27,025	27,491	27,876	27,897	28,293	28,821	29,331
14 教育	18,670	18,961	18,729	18,428	18,717	18,809	18,956	19,042	19,157	19,250	19,119	19,137	19,284	19,843
15 保健衛生・社会事業	33,831	34,207	36,260	37,353	37,764	39,897	41,908	41,766	42,769	43,784	44,131	45,423	45,613	46,733
16 その他のサービス業	23,502	22,937	22,886	22,523	22,561	22,599	22,173	22,497	22,253	22,607	20,200	20,876	21,452	22,150
小計	505,472	494,827	497,635	505,334	514,631	534,876	542,416	550,566	553,632	554,958	537,476	548,910	554,890	587,843
輸入品に課せられる税・関税	5,221	6,113	6,218	6,867	9,162	9,236	8,173	9,078	9,784	9,671	9,535	11,362	14,807	13,936
（控除）総資本形成に係る消費税	3,136	3,294	3,355	3,341	5,166	6,131	6,198	6,438	6,850	7,163	7,723	8,095	8,920	9,197
統計上の不整合	-2,027	-197	-23	-161	185	52	-26	-133	64	445	357	891	-271	-670
国内総生産	505,531	497,449	500,475	508,701	518,811	538,032	544,365	553,073	556,630	557,911	539,646	553,068	560,506	591,913

※小数点以下の端数処理のため、合計値が合わないことがある。

（資料：内閣府「2023年度国民経済計算年次推計（2015年基準）」）

IV 農業・農村、森林の多面的機能の評価

農業・農村の多面的機能とは、「国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等、農村で農業生産活動が行われることにより生ずる、食料その他の農産物の供給の機能以外の多面にわたる機能」のことであり、森林の多面的機能とは、「木材などの物質生産以外の、生物多様性の保全、土砂災害の防止、水源のかん養、保健休養の場の提供などの機能」のことであり、農業・農村、森林が有する、この「多面的機能」の定量的な評価が、各省庁・研究機関等で試みられています。（下表参照）

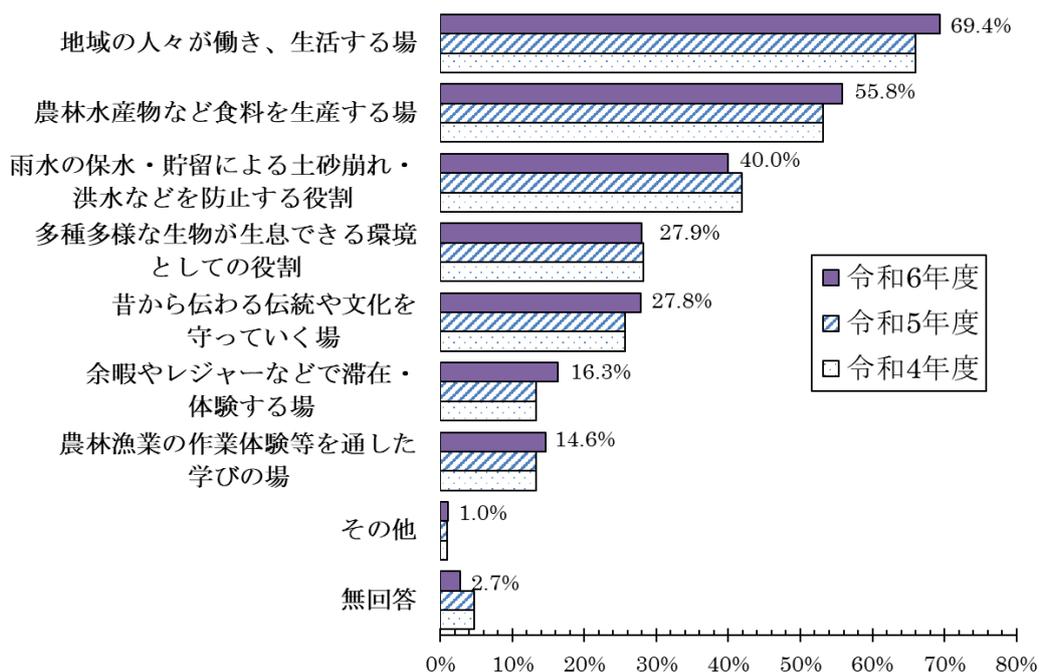
多面的機能の定量評価

評価者(発表年)	手法	評価地域	評価対象機能	評価結果	備考
野村総研 (1997)	仮想状況評価法 (CVM法)	全国	水田や畑等の経済的価値	4兆1,000億円	水田、畑等に加え牧草地、植林地など農村が持つ環境保全の機能を維持するために税金からいくら支払ってよいかを調査した結果、1世帯当たりの支出容認額の平均は10万1,000円となり、これに全国の世帯数を乗じて算出
農林水産省 (1998)	代替法	全国	洪水防止機能 水資源かん養機能 土壌侵食防止機能 土砂崩壊防止機能 有機性廃棄物処理機能 大気浄化機能 気候緩和機能 保健休養機能（文化的機能）	2兆8,789億円 1兆2,887億円 2,851億円 1,428億円 64億円 99億円 105億円 2兆2,565億円	中山間地域における評価額も算出している。 洪水防止機能1兆1,496億円（40%）、水資源かん養機能6,023億円（47%）、土壌侵食防止機能1,745億円（61%）、土砂崩壊防止機能839億円（59%）、有機性廃棄物処理機能26億円（41%）、大気浄化機能42億円（42%）、気候緩和機能20億円（19%）、保健休養機能1兆128億円（45%） 合計3兆319億円（44%） （ ）内は、各機能の評価額に占める中山間地域の割合である。
林野庁 (2000)	代替法	全国	森林の水源かん養機能 森林の土砂流出防止機能 森林の土砂崩壊防止機能 森林の保健休養機能 森林の野生鳥獣保護機能 森林の大気保全機能	27兆1,200億円 28兆2,600億円 8兆4,400億円 2兆2,500億円 3兆7,800億円 5兆1,400億円	
日本学術会議 (2001)	代替法 直接法 トランプコスト法	全国	（農業） 洪水防止機能 水資源かん養機能 土壌侵食防止機能 有機性廃棄物処理機能 土砂崩壊防止機能 気候緩和機能 保健休養・やすらぎ機能	3兆4,988億円 1兆5,170億円 3,318億円 123億円 4,782億円 87億円 2兆3,758億円	日本学術会議から農林水産省へ答申された「地球環境・人間生活に関わる農業及び森林の多面的な機能の評価について」に盛り込まれた評価
	代替法		（森林） 二酸化炭素吸収機能 化石燃料代替機能 表面侵食防止機能 表層崩壊防止機能 洪水緩和機能 水質源貯留機能 水質浄化機能 保健・レクリエーション	1兆2,391億円 2,261億円 28兆2,565億円 8兆4,421億円 6兆4,866億円 8兆7,407億円 4兆6,361億円 2兆2,546億円	
福島県 (2001)	代替法 トランプコスト法	福島県	洪水防止機能 水資源かん養機能 土壌侵食防止機能 大気浄化機能 保健休養・やすらぎ機能	1,754億円 541億円 10億円 3億円 552億円	農業・農村について評価
福島県 (2001)	代替法	福島県	二酸化炭素吸収機能 化石燃料代替機能 表面侵食防止機能 表層崩壊防止機能 洪水緩和機能 水質源貯留機能 水質浄化機能 保健・レクリエーション	947億円 43億円 1兆3,852億円 3,270億円 2,822億円 1,682億円 2,774億円 388億円	森林について評価（日本学術会議の評価資料に基づき試算）
	トランプコスト法			合計 2兆5,778億円	

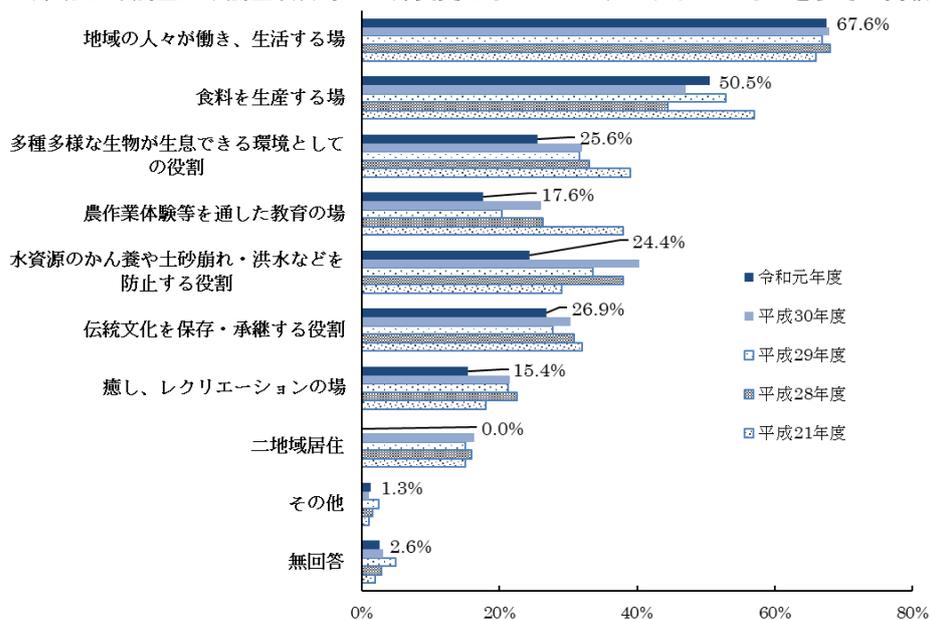
また、令和3年6月に実施した内閣府世論調査結果によると、農業・農村の果たす役割についての国民の意識は、「食料を生産する場としての役割」の割合が86.5%と最も高く、次いで「多くの生物が生息できる環境の保全や良好な景観を形成する役割」（63.9%）、「地域の人々が働き、かつ生活する場としての役割」（60.7%）、「水資源を貯え、土砂崩れや洪水などの災害を防止する役割」（45.3%）、「農村での生活や農業体験を通しての野外における教育の場としての役割」（34.8%）、「伝統文化を保存する場としての役割」（25.7%）、「保健休養などのレクリエーションの場としての役割」（10.0%）の順となっています。

なお、令和6年度福島県「県政世論調査」結果では、農山漁村に期待することとして、「地域の人々が働き、生活する場」が69.4%と最も多く、次いで、「農林水産物など食料を生産する場」（55.8%）、「雨水の保水・貯留による土砂崩れ・洪水などを防止する役割」（40.0%）、「多種多様な生物が生息できる環境としての役割」（27.9%）、「昔から伝わる伝統や文化を守っていく場」（27.8%）、「余暇やレジャーなどで滞在・体験する場」（16.3%）、「農林漁業の作業体験等を通じた学びの場」（14.6%）の順となっています。

農山漁村への期待



【参考】（令和2年調査より調査項目等が一部変更となったため、これまでのものを参考に掲載）



※ グラフの値については直近値のみ表示。

（福島県「福島県政世論調査」）

V 東日本大震災と原子力災害からの復興

福島県の農林水産業は、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災により農地や農林水産業施設等に甚大な被害を受けただけでなく、原子力災害により、営農休止や、沿岸漁業の操業自粛、放射性物質の影響による作付・出荷の制限、風評による価格下落等、これまでに経験したことのない苦境に直面しました。震災から約 13 年が経過し、地震や津波による被害からの復旧はほぼ完了していますが、原子力災害に起因する複合的な影響はまだまだ残っており、農業産出額等も震災以前の水準に回復していない状況にあります。

1 被災地の営農再開

(1) 津波被災区域のほ場整備

津波被害からの農業再生に向けて、新たな農業を展開するため、新地町や南相馬市、いわき市などにおいて農地の大区画化、用排水路、農道などの整備を一体的に推進しています。令和 7 年 3 月末時点のほ場整備地区数は 16 地区、整備が必要な面積は 2,018ha となっており、91.1%に当たる 1,838ha で営農再開が可能となっています。

(2) 営農再開面積

営農休止面積は約 17,300ha に上りますが、令和 6 年度時点で再開した面積は 9,145ha となり再開割合^{*}は 61.4%となっています。

※営農休止面積から、転用等の面積を除いた面積に対する営農再開した面積の割合。

(3) 認定農業者

原子力災害被災 12 市町村の被災認定農業者は 768 経営体に上りますが、令和 6 年度時点で経営再開した経営体は 416 経営体となり、再開割合は約 54%となっています。

※認定農業者制度（農業経営基盤強化促進法に基づき、市町村が地域の実情に即して効率的・安定的な農業経営の目標等を内容とする基本構想を策定し、この目標を目指して農業者が作成した農業経営改善計画を認定するもの）に基づき認定された農業者。

2 農地・農業用施設等の復旧

生産基盤として重要な農地や農業用施設（用水路、ため池等）の復旧に当たっては、農業者や関係する市町村と緊密な連携の下、進めており、令和 7 年 3 月時点で 2,012 箇所の工事が完了し、約 99%の復旧率となっています。

3 海岸防災林の整備

沿岸部の農地等を守るため、相馬市や南相馬市、浪江町等の 9 地区において、これまでの飛砂、風害、潮害防備などの災害防止機能に加え、津波対策として林帯幅を 200m に拡大した海岸防災林の復旧整備を進めており、令和 7 年 3 月時点で 614ha の整備に着手し、植栽ベース進ちょく率は 99%となっています。

4 治山・林道施設の復旧

治山施設[※]・林地（山腹崩壊等）の復旧に当たっては全ての復旧工事が完了し、治山施設では令和 3 年 3 月時点で 28 箇所（復旧率 100%）、林道施設では令和 4 年 3 月時点で 163 箇所（復旧率 100%）の工事が完了しています（帰還困難区域で未査定[※]の 38 箇所を除く）。

※森林整備と併せて森林の持つ山地災害防止等の公益的機能を発揮させるために治山事業により整備した施設。主なものとしては、治山ダム、護岸、土留め、水路等がある。

5 漁業の再開

被災した漁船の復旧や水産業共同利用施設（荷さばき施設等）、漁具等の整備を支援し、沿岸漁業の操業拡大を推進しています。また、県産水産物の安全性の確保を根幹に、生産から流通、消費に至る総合的な対策を通して、水産資源を管理しながら震災前より少ない労力で収益の確保をめざす「ふくしま型漁業」の実現に向けた取組を推進するとともに、水産業の復興に必要な新たな水産関連施設（水産加工施設、流通施設）の整備を支援しています。

沿岸漁業において操業自粛を余儀なくされた経営体は約 740 経営体に上りますが、平成 24 年 6 月から小規模な操業と販売により出荷先での評価を調査する「試験操業」が開始され、さらに令和 3 年 4 月から本格的な操業への移行をめざす取組が開始されたことから、令和 6 年 12 月時点で 558 経営体*（再開割合 75%）が操業を再開しています。

再開した産地市場は 8 市場となり、震災前の 12 市場と比較し、約 67%の再開率となっています。

※県調べに基づく推計値